

デジタルハリウッド大学

2019 年度 一般入学試験 A 方式

国語問題(60 分)

受験についての注意

1. 監督の指示があるまで、問題冊子は開かないこと。
2. 携帯電話、スマートフォンなどの音が鳴るような電子機器は全て電源を切っておくこと。
3. 腕時計を持ってくる者は、予め机の上の見える位置に置き、試験中は触らないこと。
4. 試験開始前に監督から指示があったら、解答用紙の所定欄に氏名と受験番号を記入すること。
5. 監督から試験開始の合図があったら、この問題冊子を開き、32 ページ(白紙のページを含む)そろっているか確認すること。
6. 解答は、選択肢から正解と思うものを選び、解答用紙のマーク欄をぬりつぶすこと。マーク欄以外には何も記載しないこと。解答の際には、マーク欄の枠からはみ出したり、白い部分を残したり、そのほかの部分に記入したりしないこと。マークの例は、解答用紙を参照のこと。
7. 筆記用具は HB の黒鉛筆、または HB のシャープペンシルを使用すること。その他の筆記用具の使用は認めない。
8. マークを訂正する場合は、消しゴムで丁寧に消すこと。消しきずはきれいに取り除くこと。
9. 時計のアラームや計算機能、辞書機能などは一切使用しないこと。
10. 解答用紙を折り曲げたり、破ったりしないこと。
11. 試験中の退場は認めない。
12. この問題冊子と解答用紙は持ち帰り厳禁とする。試験終了後、ともに回収される。

第一問 次の小説の一節を読んで、後の設問に答えなさい。

東京で働くデザイナーの瀬尾水樹は、ある日、中高時代のクラスメイト・堂林憲吾から恩師（遠子先生）が重病で入院中であることを聞く。見舞いのために出身地である京都に帰って来た水樹を、憲吾が駅まで車で迎えに来てくれた。

「すっかり東京の人になったな。なんだか話し方も変わっちゃったし」

憲吾がクーラーの送風口を手で上向きにする。高校生までの彼しか知らないのも、ハンドルを握る姿が新鮮だ。

「だってもう二十年以上も向こうにいるから。そういう堂林くんだって、中学の時と同じような話し方してるじゃない。①イントネーションも全然変わってない」

水樹が言い返すと、「いやいやおれも、仕事場ではちゃんと京都の言葉を使ってるから」と憲吾は愉快そうに笑う。

昔から水樹にとって、憲吾はとても不思議な人だった。不思議というより、こちらの想像のつかないところに生きている人、というべきかもしれない。彼の内側には水樹たちが見聞きしたこともない世界が溢れるばかりに詰まっ**て**いて、彼は言葉によってその②**広大な景色**を自分達に見せてくれた。

——はじめまして堂林憲吾です。一週間ほど前に京都に越してきました。憧れの日本に住むことができて、感激しています。

中学一年の初夏に転入してきた日の憲吾の自己紹介は、今でも忘れられない。地元の小学校から上がってきた生徒ばかりの中で、彼の英語まじりの標準語は事件だった。

——ぼくは生まれて間もなく父の仕事の関係で外国へ行ったので、日本で暮らしたことはほとんどありません。でもいつもこの国の

ことは誇りに思っていました。戦後からのこの経済成長は、海外では東洋の奇跡、「Japanese miracle」として知られていて、ぼくは何度かこの時代について問われたことがあります。日本には勤勉で優秀な人たちがたくさんいるのだと、小さい頃から周りの大人に聞かされてきました。だからこうして日本の学校に学ぶことになって、本当に嬉しくて仕方ありません。ぼくはこの京都という日本最大の異界都市を訪ね歩きながら、日本人としての *spirit* を取り戻したいと思います。みんな、よろしく。

周りの反応などまったく気にせず、憲吾は思うままに話すと、すっきりとした顔で席についたのだ。

「よく憶えてるね。そんな大昔のこと」

「だって強烈だったのよ。堂林くんみたいなの、生まれてから一度も見なかった」

「今から思えば石投げられていてもおかしくない奇妙な転校生だったんだろうね。でもおれなりに緊張してたんだ。自己紹介も、事前にかなり練った記憶がある」

彼が楽しそうに言うので、

「でも人気あったよ、堂林くん。誰にでも優しくかったから」

と、水樹も笑顔を返す。

初めて見た時は、その完璧な容姿にまず衝撃を受けた。繊細な造りのきれいな顔立ちは、彼の柔らかい雰囲気とあいまって女子たちを虜にした。新しい制服ができるまで、転校生はそれまで通っていた学校の制服を着るのだが、イギリスの中学からやって来た憲吾の制服は格別に洒落ていた。緑がかった深い青色——シアンとしかいいようのない色目のブレザーに臙脂のタイを結び、グレーの細身のズボン。学生服姿の男子たちに混じると、カラスの中に孔雀が紛れているようだった。憲吾に新しい学生服が出来上がると、③ 眩い孔雀を遠巻きに見つめていた女子たちはあからさまにがっかりした。

でも憲吾は話を始めると、その口から出てくるのは妖怪だとか異界だとか、そういうことばかりで、虜にされた女子たちは、少し距離を置く感じになっていった。そのうちに、憲吾の父親が妖怪研究の権威で、世界各国の大学や研究所を転々として働いているという噂が広まると、今度はそんな奇妙なところで人気に火をつけた。

水樹は妖怪について研究するということが今ひとつわからなかったし、そんなことを職業としている人がいるということを初めて知った。仕事というのは、自分の父親のようにタクシーを運転したり、母親のように工場で惣菜を作ったりするものだと思っていたから。

「お昼用のパンも女子に先に選ばせてくれたし」

「パン？ ああ。食べてたなあ、中学の時でしょ？ おれは弁当じゃなかったから飽きもせず、毎日食べてた」

必要な生徒だけが頼む昼食用のパンは種類などおかまいなしにクラスに配給され、そのパンを憲吾は女子から先に選ばせてくれた。配給場所まで容器を取りに行くのを「男の役目にしよう」と決めたのも彼だ。文句を言う男子も何人かいたけれど、憲吾は「重いものを男が運ぶのは当たり前のことだよ。それにきみは四個も注文してるじゃないか。女子の注文数は少ないんだから好きなのを食べさせてあげないと」などさらりと言ったのだ。

少しずれていたにもかかわらず、苛められたり仲間はずれにされたりしなかったのは、根っから優しいのだとみんなが理解していたからだと思水樹は思う。憲吾の薦めで、クラスの男子全員が小泉八雲にはまってしまったこともあった。④という八雲のややこしい本名を、あの時のクラスメイトなら、今も滑らかに言えるだろう。

「瀬尾が来てくれてよかった」

「えっ？」

「遠子先生、瀬尾に会おうとすごく喜ぶと思う。瀬尾さんは元気かしらねって、たまにおれに訊いてきてね」

嬉しそうに憲吾が言うので、^⑤水樹は頷き自分の手元を見つめる。こんな形で会いに行くのではなく、元気な先生を訪ねていくのならどれほどよかったか。感謝してもしきれない人なのに、二十年以上もの間、一度も顔を見せに行っていない。もし憲吾が連絡をくれなかったら、何も伝えられないままだった。

黙ってしまった水樹を気遣うように、

「年々暑くなるよな、夏」

と憲吾が言う。

「ほんと。小さい頃、私の家にはクーラーがなかったの。でも今はクーラーをつけずに部屋の中で過ごすのってありえないことだよな」

「そうだよなあ。なんか危機感を感じる暑さだよな、これは」

とりとめのない話をしながら河原町通り^{かわらまち}を北に向かって進んでいく。

「京都に戻ってくる気は、全然ないの？」

憲吾が訊いてくる。

「今のところないかなあ。勤め先が向こうだし、もう東京に住んで長いから、生活の基盤みたいなものが、もうこっちにはないからね」

「でもお兄さんが地元にいるんだろ」

「うん、でも兄じゃねえ。姉妹だったらまだしも」

水樹が答えると、「そっか」と憲吾は頷く。

「堂林くんは転勤とかないの？」

「おれは市の職員だからここを離れることはまずないよ。まあ離れる気持ちもないからね」

この土地が心底好きなのだと、憲吾は胸を張った。中学生の時に移り住んでからずっと、ここを終の棲家つゐすみかにしたいと思っていた。公務員の試験を受けたのも、そのためだと。

「遠子先生もたしかそんなこと言ってたね。旅行で一度来てから虜になって、東京からわざわざこっちに出て来て就職したって。ひよつとすると堂林くんみたいに異界オタクだったりしてね」

水樹が笑うと、憲吾は「そういえばさ」とにやりと笑い、

「この前さ、六道珍皇寺ろくべんこうのうじに行つて来た。東山ひがしやまにある」

と嬉しそうに話し始める。

「通称『六道さん』。六道つてのは、仏教でいう天道、人間道、修羅道、畜生道、餓鬼道、地獄道……つまりこの六種類の冥界を、人は死んだら⑥ルテンするんだ。六道珍皇寺にはこの冥界への入り口があると伝えられてるんだけど、確かに何か感じるものがあつたね」

「感じるもの？」

「そう。平安時代に小野篁おののたかむらという官僚がいたんだ。で、この官僚、昼は朝廷の役人なんだけど、夜になると閻魔庁えんまの冥官みょうかんをしていてね。つまりこの世とあの世を自在に行き来してた。その冥土への出入り口の古井戸が、まだこの寺に残つてて。久々に、胸が高鳴るスポットだったよ。小野篁つてね、今昔物語集にも冥官説話が載つてんだよ。⑦があるだろう。つてなにかな、その顔は」

「いやあ、本当に変わらないなあと思つて。こういう話をしてる時の堂林くんの顔つて、昔と全然変わらない」

「なに、成長してない？」

「マイペースっていうか。転校してきた日の挨拶から、⑧堂林ワールドの位置づけは私の中でずっと同じままだよ」

いつも心のどこかに憂鬱を抱えて毎日を生きていた十代の自分を、憲吾のこうした話は日常ではないどこかへ飛ばしてくれた。重い

荷物を背負ったままで学校に通うのだけれど、憲吾はその荷物をひよいとどこかに置いてくれるような。ちぢこまり、顔を伏せる自分を
広野に連れ出してくれるような。そんな存在だったことが静かによみがえってくる。

（ふじおかようこ藤岡陽子『手のひらの音符』より）

問 1 傍線部①「イントネーションも全然変わってない」とはどういう意味で用いられているか、ア～エの中から選んで答えなさい。

ア 中学生の頃のような子どもっぽい口調のままなので、時間の経過を感じない。

イ 相変わらず標準語の話し方のままなので、京都の人らしくない。

ウ 京都の言葉がすっかり板についているので、時の流れを感じる。

エ 久しぶりに会う友人の前では、気持ちや口調が学生に戻ってしまう。

問 2 傍線部②「広大な景色」とはどのようなものか、ア～エの中から選んで答えなさい。

ア 日本からは遠く離れた、イギリスの風景や雰囲気。

イ 海外からの視点で気づかされる、新鮮な日本の姿。

ウ 洗練された容姿や、女性を大切にする外国の文化。

エ 水樹たちの日常とはかけ離れた、想像の及ばない世界。

問3 傍線部③について、「遠巻きに見つめていた」女子たちの心情とはどのようなものか、ア～エの中から選んで答えなさい。

ア 興味と珍しさがあり、見慣れない服装の男子生徒から目が離せずにいる一方で、なじめない異質のものも感じているため、一定の距離を置いて観察している。

イ 強く惹きつけられ、隙を見て話しかけたいと思っ**て**はいるものの、他の女子生徒も同様の思いであることを感じているため、互いに意識し牽制し合っている。

ウ 自分達とは異質な存在に対して、気軽に近づいたり話しかけたりすることができずにいるが、その魅力に心を奪われ、憧れや称賛を抱きながら見守っている。

エ 群を抜いて目立つ魅力的な新参者の登場に、皆が心をざわつかせるとともに、あちらから自分達との差異を縮め同化しようとしてくれることを望んでいる。

問 4 空欄④に入る人名を、ア～エの中から選んで答えなさい。

ア エドガー・アラン・ポー

イ エドワード・モース

ウ ラフカディオ・ハーン

エ ウイリアム・アダムス

問 5 傍線部⑤について、水樹はなぜ「領き自分の手元を見つめ」たのか、ア～エの中から選んで答えなさい。

ア 「瀬尾が来てくれてよかった」と言われたことが嬉しく、憲吾が自分との再会を待ち望んでくれたかのように思ってしまったが、実は遠子先生を氣遣つての言葉であつたと気づき、落胆したから。

イ 「遠子先生、瀬尾に会うとすごく喜ぶと思う」という言葉が、長い間先生に顔を見せに行かなかつた自分を責めているように感じられ、憲吾にそんなつもりがないとわかっていても、落ち込んでしまうから。

ウ 「遠子先生、瀬尾に会うとすごく喜ぶと思う」と憲吾に言われたことで、先生の病気が重くなるまで連絡をくれなかつた憲吾を恨めしく思う気持ちが生じ、早く会いに行かなかつたことが悔やまれたから。

エ 「瀬尾さんは元気かしらねって、たまにおれに訊いてきてね」という憲吾の言葉に、自分を気にかけてくれた先生への思いや元気なうちに訪ねなかつたことへの自責の念が込み上げ、心が塞いだから。

問 6 傍線部⑥に合致する漢字を、ア～エの中から選んで答えなさい。

ア 留転

イ 流転

ウ 留天

エ 流展

問 7 空欄⑦に入る言葉として適当なものを、ア～エの中から選んで答えなさい。

ア 信憑性しんぴやう

イ 神秘性

ウ 客観性

エ 文学性

問 8 傍線部⑧「堂林ワールドの位置づけ」とあるが、本文全体の内容をふまえると、水樹にとって憲吾はどのような存在だったと考えられる

か、ア～エの中から選んで答えなさい。

ア かなり個性的で自分の世界に没頭してしまう子どもっぽいところもあるが、その少年らしい無邪気さが水樹にとってはうらやましくも思えて、心惹かれる特別な存在。

イ マイペースで周囲の人の気持ちに気を配れないところがあるが、その自由さで水樹を、退屈な日常や自分を縛っているものから解放してくれるように感じさせる存在。

ウ 普通に会話しているだけで、憂鬱な日常生活や、その中での悩みを忘れさせるような新鮮な世界を垣間見ることができ、水樹の重苦しい心を軽やかにしてくれる存在。

エ 水樹の悩みを誰よりも理解し、常に寄り添って心の重荷と一緒に背負おうとしてくれる人であり、引きこもりがちだった水樹を外の世界に連れ出してくれる存在。

第二問 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

PVという単位を聞いたことがあるでしょうか？ これはウェブページなどが何回、^①閲覧されたかを計る指標です。あるウェブページが一〇〇PVだったとすると、一〇〇回表示されたということです。

ネット業界では自分のネットサービスがいかに人気があるのかを示すのに、PVの数字の多さで示すことがよくあります。月間一〇〇万PVというと、そのサイトが一ヶ月間に一〇〇万ページも表示されたということです。一見すると一〇〇万人見たような錯覚を覚えますが、実際にはひとり平均一〇ページを閲覧していると一〇万人ですし、ひとり平均一〇ページで一ヶ月間毎日見ていたとすると、さらに三〇分の一になって三三三三人しか見ていないことになります。

つまりひとりで何回も何ページも見るとPVの数字はどんどん膨れあがっていくのです。だから、本当はPVの数字で異なるサイトを比較するのはあまり意味がないのです。もっとリアルな人数に近い数字をつくったほうがいいと思うのですけれども、ネット業界では景気がいい数字のほうが好まれるので、あんまり定量的な比較には役に立ちそうもないPVという指標がいまでもよく使われています。

というわけで、ひとりで何回も見て^②されているPVですが、PVの数字を^②するのは人間だけではありません。ボットと呼ばれる機械が閲覧してもPVの数字は増えるのです。

ブログで日記などを書くとき分かりますが、どんなに無名な人がどんなにつまらない日記を書いても、ログを調べると、何人かは必ず、その日記を見たことになっています。そのうちの何カウントかはまず自分自身が見たことによって増えた数字です。残りはたまたまだれかが間違えてこんなつまらない日記を見ちゃったのだろうとみんな想像するのですが、たぶんそれは間違いで、実際はだれも見えていません。

増えた残りの数字は人間ではなくボットと呼ばれる機械が自動的に巡回してきたからでしょう。ボットというのはグーグルやヤフーのよう

な検索エンジンのほか、RSSリーダーのような自動更新チェックプログラムに由来するものなど、さまざまな種類がネットを巡回しています。実はいろいろなウェブページのPVに占めるこうしたボットの割合は、結構、馬鹿にならないのです。

本来は月間××万PVなどといって宣伝するのであれば、ボットによるPVはカウントしないのが正しいと思うのですが、まあ、減らしたところで自分のウェブページが景気の悪い数字になるだけなので、みんなそのままの数字で宣伝するのです。これはネット業界の悪い慣習のひとつです。

さて、ウェブページを閲覧するのは人間だけでなくボットという機械もあるということはお分かりいただけたと思います。でもウェブページを実際に使うのは人間で、ボットはなにかの調査のために巡回しているだけですから、本来重要なのは人間のアクセスだけのはずです。

③だから、ウェブページをつくるときには人間が見やすいデザインにすることが大切です……。そのはずです……。

ところが驚いたことに、現実はどうでもないのです。いま、ネット業界でネットサービスのマーケティングの責任者が、まず第一に重視するのは人間ではなく、ボットのほうなのです。人間がネットサービスのウェブページを見たときにどう思うかではなく、ボットがそのウェブページを見たときにどう思うか、そちらのほうが重要だということになっているのです。そして、ボットといっても全部のボットではありません。

④重要なのは検索エンジンのボット、それもグーグルのボットなのです。

グーグルのような検索エンジンのボットに合わせてウェブページを最適化することをSEO（検索エンジン最適化）といいます。

SEOとは検索エンジンが優先的にウェブページを表示してくれるように努力することを行います。検索エンジンはなにかのキーワードで検索されたときに、そのキーワードが含まれている世界のすべてのウェブページの中から独自の（注）アルゴリズムで優先順位をつけて表示します。

検索結果の上位に表示されるとそれだけ多くの人にクリックされて訪問者が増えます。しかも検索によって訪問者が増えても広告料を支払

う必要はありませんので、検索エンジンの検索結果で上位に表示されることは非常に得なのです。

そこで検索エンジンのアルゴリズムを^⑤カイセキして、できるだけ検索結果が上位に表示されるようにするテクニックが発達したのです。ですから人間が見てとてもインパクトのあるウェブページのデザインを思いついたとしても、SEO的に不利である（検索エンジンのボットに受けが悪い）と判断されると却下される、そういう現象が起こっているのです。

SEOとはグーグルなどの検索エンジンのボット、つまり機械に気に入ってもらうためのマーケティングなのです。

^⑥ハーディングマシンの例でも、人間が機械に気に入られるように努力していました。SEOも同じように、ネットで機械に気に入られるように人間が努力をしています。機械が社会の構成要素として占める割合が大きくなると人間が機械に合わせる、そういう現象が起こるのはあたりまえのことでしょう。

さて、人間と機械の関係はこれからどうなるのでしょうか？ 一本道に機械が増えていく、そんな単純な未来でもなさそうです。^⑦スパムメール、スパムブログ、^⑧HFTですが、実は最近になっていずれも減少しているという報告があります。なぜ、減少しているのでしょうか？ 日本でも社会問題化して、国家ぐるみで取り組んだスパムメール対策などの効果があったからでしょうか？ もちろんそれはそれで影響が大きかったとは思いますが、本質的な理由は違います。^⑨からです。

スパムメールを増やせば増やすほど、みんな学習してしまい^⑩騙される人はどんどん減っていき、メールフィルタなどの対抗手段も増えてきて、儲からなくなってきたのです。儲かっているれば、スパムメール側もいろいろ抜け道とか新しい方法を考えて、^⑪いたちごっこになるのです。が、儲からなくなったのでそういう努力をするのをやめたのです。

HFTも同じで、HFTが増えれば増えるほど、株式相場の価格変動が小さくなってきて、だんだんと儲からなくなってきたのです。

ちょうど生態系で、^⑫、という話に似ています。そしてエサというのは要するにお金儲けのことですから、お金という仕組みをつくりだ

した人間社会の中の出来事でもあります。

このことを整理して考えると、人間社会という生物の体内に、お金をエネルギー源にして増殖する機械という寄生虫が出現したというふうに考えることもできます。寄生虫といってもスパムメールやスパムブログは明らかに害虫ですが、HFTなどは株式相場の価格安定に役立つ作用もありますから、益虫とまではいえなくても人間社会とうまく共生している存在であるといえるでしょう。

そして人間社会という生物を構成する細胞はこれまでは人間ばかりだったわけですが、グーグルの検索エンジンのように^⑨機械からなる人工臓器も増えてきたという比喻が分かりやすいのではないのでしょうか。

さて、そういう感じで寄生虫やら人工臓器みたいな「機械」と共存している細胞であるところの「人間」にとって、^⑩未来の人間社会はどのようなものになるのでしょうか。

まず、今後、ますます機械の存在は大きくなったとしても、とりあえずは機械の反乱に人間が怯える必要はないでしょう。しかしながら、機械が人間の奴隷となつてなんでもやってくれるようになると思うのも、ちょっと甘い考えです。今回、説明したように機械がはびこる世界では、おそらく人間が機械に合わせないと生活できないようになるのです。

いや、機械が進歩すれば、逆に機械が人間に合わせてくれるようになるはずだ、そう主張する人もいるかもしれませんが、それは^⑪ソフトウェア技術者のはしくれとして反論しましょう。

今回、機械という言い方に統一しましたが、人間と未来に共存する機械とは要するにコンピュータプログラムというソフトウェアを中心にしたシステムのことです。そのシステムがもし個人を対象とした^⑫なものであれば、人間に合わせて進化していくでしょう。でも、社会全体を対象とした^⑬なものであれば、そういうものは非常に変更が難しいものになります。

コンピュータプログラムとはそういうものです。たくさんの方が利用するシステム、影響範囲が大きいシステム、なんどもバージョンアップ

されたシステム、そういうものは些細な変更ですら非常に大変になるのです。

⑫ な機械は人間に合わせてくれる、でも ⑬ な機械には人間が合わせるようになる、そういう未来がくるに違いありません。

(川上量生『鈴木さんにも分かるネットの未来』より。出題の都合上、本文中に一部省略した箇所がある)

(注1) アルゴリズム——コンピュータのプログラムにおいて、問題を解決するための手順。

(注2) ハーディングマシン——映像が人体に有害な影響を与えないかを点検する装置。この文章より前の部分で紹介されている。

(注3) スпамメール、スパムブログ——受信者の意向を無視して無差別に送られてくるメールや、特定のサイトへの誘導を目的としたブログのこと。

(注4) HFT——コンピュータで、自動的に極めて短い間に株の売買などを実施するシステム。高頻度取引。

問9 傍線部①の漢字の読みを、ア～エの中から選んで答えなさい。

ア せつらん

イ えつらん

ウ しらん

エ からん

問 10 空欄 ②に入る言葉として適当なものを、ア～エの中から選んで答えなさい。

ア 遠隔操作

イ 閲覧

ウ 偽造

エ 水増し

問 11 傍線部③について、「大切です……。そのはずです……。」の「……」には筆者のどのような思いが込められているか、ア～エの中から選んで答えなさい。

ア 非常に切実な願いであることを表現しており、それと相反する現状を、何とか変えていかなければならないと訴える思い。

イ 本来であればそれが当然の姿であるはずなのに、現実はどうなっていないという意外な状況を、それとなく示そうという思い。

ウ 本来あるべき姿がないがしろにされ、人間よりも機械にとつての印象が重視される現状に、強い憤りを隠せずにいる思い。

エ 当然あるはずの姿を先に述べることで、現実とは微妙にずれが生じていることを、言外にほのめかそうという思い。

問12 傍線部④について、なぜグーグルのボットが重要視されるのか、ア～エの中から選んで答えなさい。

- ア SEOによって検索結果の上位に表示されることで、広告料をかけることなくウェブサイトへの訪問者を増やせるから。
- イ 人間が見てインパクトがあるデザインよりも、検索エンジンのボットに受けのいいデザインを重視する時代だから。
- ウ 検索エンジンのアルゴリズムが研究しつくされ、どうすれば検索結果の上位に表示されるかが分かってきたから。
- エ 人間よりも機械が重視されるのが現実であるため、機械である検索エンジンのボットに気に入られる必要があるから。

問13 傍線部⑤に合致する漢字を、ア～エの中から選んで答えなさい。

- ア 開績
- イ 回斥
- ウ 改積
- エ 解析

問 14 空欄 ⑥ に入る内容として適当なものを、ア～エの中から選んで答えなさい。

ア 人が騙されなくなった

イ 対抗手段も同じく増えた

ウ 儲からなくなった

エ 抜け道がふさがれた

問 15 傍線部 ⑦ 「いたちごっこ」の意味として適当なものを、ア～エの中から選んで答えなさい。

ア 皆が、一斉に同じ振る舞いをする様子。

イ 堂々巡りばかりで、きりがない様子。

ウ 何とか甘い汁を吸おうとする様子。

エ 他人を食い物にしようとする様子。

問 16 空欄 ⑧ に入る内容として適当なものを、ア～エの中から選んで答えなさい。

- ア ある生物が賢くなりすぎて、他の生物たちのエサまで奪うようになった
- イ ある生物が増えすぎたためエサが足りなくなつて、数が減ってしまった
- ウ ある生物にエサを与えすぎたため、自らエサを探すことに興味を失つた
- エ ある生物がエサを手に入れても、より強い生物に横取りされてしまう

問 17 傍線部⑨について、この「比喻」が表す内容を、ア～エの中から選んで答えなさい。

- ア 人間の身体はこれまでの歴史において、自らの細胞の力だけに支えられて成立してきたが、コンピュータプログラムの進歩により、機械が人体の健康を支え、維持する力となつてきているということ。
- イ 今までは私たちの社会を構成する要素を人間主体で担ってきたが、検索エンジンに代表されるコンピュータプログラムのような機械も、それに数多く加わるようになってきたということ。
- ウ これまで私たちの社会の構成要素は、人間に代表される細胞を有する生物ばかりであったが、今はグーグルの検索エンジンのように、人工細胞を持つ機械も多く存在するようになったということ。
- エ グーグルの検索エンジンのように、私たちの生活に欠かせない重要な機械が増加し、人間社会は今や人間そのものによってではなく、機械によって成立し、動かされているのが実情であるということ。

問18 傍線部⑩について、筆者は「未来の人間社会」はどのようなと考えているか、ア～エの中から選んで答えなさい。

- ア 機械が今以上に進歩を遂げることで、人間に合わせたプログラミングができるようになり、現状よりも人間が機械の優位に立てる。
- イ 機械が今より社会に不可欠で重要な存在として君臨するようになり、人間はそのプログラミングによって管理される存在になる。
- ウ 機械が社会において一層重要な位置を占めるようになり、人間が機械に気に入られるように合わせないといけない場面が増える。
- エ 機械の性質によって人間に合わせてくれるものと合わせてくれないものとに分かれるようになり、社会の秩序や統一性が失われる。

問19 傍線部⑪「ソフトウェア技術者のはしくれ」とはどういう意味か、ア～エの中から選んで答えなさい。

- ア ソフトウェア技術者の先駆け。
- イ ソフトウェア技術者の末端。
- ウ ソフトウェア技術者の異端者。
- エ ソフトウェア技術者の頂点。

問
20

空欄

⑫

・

⑬

に入る言葉の組み合わせとして適当なものを、ア～エの中から選んで答えなさい。

ア

⑫

ローカル

⑬

グローバル

イ

⑫

ユニーク

⑬

ノーマル

ウ

⑫

ミクロ

⑬

マクロ

エ

⑫

パーソナル

⑬

パブリック

第三問 次の設問に答えなさい。

問 21 次の四字熟語の正しい意味はどれか、ア～エの中から選んで答えなさい。

傍目おかめ八目

- ア 当事者よりも、わきで見ている人の方が真相を理解できること。
- イ 他の人の物や状態は、実際よりも良いものに見えてしまうこと。
- ウ 物事を始めるにあたり、それが及ぼす影響を十分考慮すること。
- エ 自身は気づかなくても、常に他者の視線にさらされていること。

問 22 次の四字熟語の□に入る漢数字の組み合わせはどれか、ア～エの中から選んで答えなさい。

□日□秋

- ア 一・百
- イ 一・千
- ウ 百・千
- エ 十・百

問 23 次の熟語の対義語はどれか、ア～エの中から選んで答えなさい。

寡黙

ア 騷擾さうじょう

イ 沈黙

ウ 饒舌じょうぜつ

エ 輕薄

問 24 次のことわざと反対の意味のものはどれか、ア～エの中から選んで答えなさい。

泥棒を捕らえて縄をなう

ア 二階から目薬

イ 雨後の竹の子

ウ 転ばぬ先の杖つえ

エ 魚心あれば水心

問 25 次の意味を表す故事成語はどれか、ア～エの中から選んで答えなさい。

古い慣習を捨てきれず、変化できないこと。

ア 杞憂きゆう

イ 蛇足

ウ 白眉

エ 守株しゆしゆ

